

抑々都市計劃なるものは都市をして現代文化の要求に適應せしめんとするものにして、街衢を整理し、改造して都市生活の弊害を除き、且つ將來都市に包含すべき地區を豫定して、快樂・利便・衛生及美觀の諸要求を具備したる善良なる市街を創造し、以て都市をして思慮なき人爲に依りて自然の惠澤を滅失せしめらるゝ事なく、住民をして永遠に安寧福利を享受せしむるものなり、大正九年一月一日都市計劃法發布せられたるにより、我が大阪市は從來計劃しつゝありし市區改正の事業を繼ぎて諸船の改良を施

こし、更に大に接續町村を區域内に包含して統一的計劃を立つる事となれり、抑、我が大阪市は城下都市及工業都市の性質を併有し、是に通有の弊害を具ふるのみならず、人口の集中力頗る大にして其の密度の高き事歐洲の大都市たる巴里・伯林に次ぎ、其の増加の急速なる事歐米に於ける新興の諸都市に譲らず、此の故に遠大の規模を立て之に對應するの計劃を爲し交通機關の利用を全からしめ、水陸の運輸を圓滑にし、上水・下水の設備を完全にし、公園の分布を適當にして市民の保健を計る事は近代文化の大勢

に對應して都市の運命を展開する必須の計劃なりとす。

都市計劃は都市全體の共同福利の爲にする所のものなるが故に團體生活の要求と相容れず、其の共存の妨となるが如き個人の利益は之を顧みる事を得ざるなり、故に全體の爲に部分を犠牲に供するを辭せざる所の節制ある公共心が磅礴するにあらずんば、到底此の事業の完全なる遂行を庶幾すべからざるなり。

然り而して都市計劃の最終の目的は人に存す、個人の幸福は全體の幸福と一致す、個人を犠牲に供する事は即ち更に大なる個人の幸福を求めんが爲なり、都市をして善美の理想に適せしめ、住民の便益を増大し、其の健康を増進し、其の生命を長からしめ、人をして生存の意義を全ふし、其の主張を達成せしむる事は、實に都市計劃の最終の目的にして、近代文明の趨勢の已むべからざる要求なり、市民たるもの深く思はざるべからざるなり。

三一 市民道徳

都市は公衆團體なり、故に其の團體の構成分子たる各自市民が其の公衆團體を重んじ、廣く一般公衆の安寧幸福を圖るの精神なくば社會の鞏固なる結合は望むべからず、社會の鞏固なる結合なくば其の進歩發達は得て期すべからざるなり、公衆團體に對する道徳に必要なるを協同一致の精神とす、公共の事業に従事するに當りては、各自一個の利益のみを目的とせずして、協同一致し共に其の社會團體の爲に盡さん事を要す、人の職業に従事するは協同作業の

一部を分擔するものにして、職業は一面自營の方法たると共に、一面公共的性質を帶ぶるものなれば、須く公衆の利益を目的として之に従事すべし。商估が顧客によりて價を二三にし、醫師が故なくして患者の招に應ぜざるが如きは、職業の公共的方面を忘れたるものなり、職業を勵みて産業を振起し、研究を力めて學理を闡明するが如きは、自己を益すると同時に、社會に貢獻するの功尠からざるものなり。都市に屬する財産は、公共の所有にして、其の供給する利益快樂は幾多の人人と共に、之を享受するもの

なれば、市民は之を共同保護する責任あり、世人往々公共の財産を毀損して顧みざるものあり、公園の樹枝を折り、圖書館の藏書を汚し、神社・堂宇・公舎等に樂書するの類は屢々認むるところなるが是等の行爲は、其の責任に背くものなり

公共機關の運用については、自ら其の業務の衝に當るものの忠實に己が任を果すべきは勿論、然らざるものも、亦之を妨げざることに注意すべし、鐵道吏員が信號を怠りて容易ならざる慘事を惹起し、新聞記者が輕卒に誤報を傳へて、非常の恐慌を社會に惹き

起さしむるが如き例、枚舉に違あらず、其の他個人が道路に車輛を横へて交通を塞ぎ、水道を濫用して泉源を涸らす等の類は、些々たる不注意に出づと雖も、其の影響する所少からず、總ての公共の機關は公衆の共同管理に屬するものと思ひ、協力して其の運用の敏活を期すべきなり。

公衆の安寧につきては、更に一層個人の注意の周到と協同の精神の旺盛とを要するものあり、疫病の流行、水火の襲來等の場合に各自身を挺して、共に防遏に従事するときは、其の一般に及ぼす害毒の慘烈を

免るるのみならず、又各自の安寧をも保全することを得べし、一人の懈怠は全體の災禍を大にし、一人の肅整は全體の幸福を招徠す、火災に對する不取締、衛生上の不行届、傳染病患者の隠蔽等は個人の不注目によりて累を公衆に及ぼすものにして、その不道徳の責少からずとす、

其の他、公共の集會、共同の娛樂等に參する場合には衆人の利益と満足とを全くすることに留意すべし、己れ獨り便宜の位地を占領して他人の迷惑を顧みず、猥りに高聲を發し若しくは拍手して、他人の快樂

を妨ぐるが如き舉動は公徳に背くものなり。

汽車に乗りて世界の諸國を旅行するに、其の同乗せる旅客の言語舉動によりて、大抵其の國民の品格を知ることを得べし、而して其の最も品格の高きは英國人にして、英國の汽車に乗れば、定員に満たざる列車に在りても、先乗の客は必ず自己の荷物を片付けて後乗の客に席を與ふ、旅客は相知るものにあらずんば、終日同室に在るも、互に言葉を交ふること稀なり、初めて乗込むとき、先乗の客は後乗の客を、後乗の客は先乗の客を一瞥することあるも、席定まりて後、

他人の顔を凝視するが如きは多く見ざる所なり、又列車には喫烟車と禁烟車とを識別せしむべき文字の外、乗客に對して多く注意を掲げたるものなし、手荷物を預くるも合札を求むる事なく、到着の驛にて各々自己の荷物を識別して持ち行くなり、窓の開閉等も同乗者の同意を求むるにあらずば、之を爲す事なく、電車の賃錢は多く乗客自身に設けられたる箱に投入するなり、英國人は獨立自尊の念に富み、他動的に禁止命令せらるゝの必要なきなり、實に自尊は品性の淵源なり、英國人は自ら信ずる事厚く英國紳

士といふ一語は偉大なる威力を有し、青年の精神に深刻なる印象を留む、學友互に相諫むるも、父兄の子弟を戒むるも、唯此の一語を用ふるのみ、夫れ都市は一國文明の集中する所にして、市民の品位は一般國民の仰視する所なり、さればよく其の地位を自覺し自重して、其の行爲を律する所なかるべからず。

三二 市民と保健

都市は人口の集中する處、事業の勃興する處なるを以て、社會組織は複雑にして生活の困難は多し、是を

以て市民の健康は漸く不良となり、命數は益々短縮せらるゝ傾向あり、是れ都市住民の生存に對する大なる脅威たらずんば、何となれば都市の將來の運命は主として住民の體質の良否に關すればなり、而して都市の盛衰は直に我が國勢に影響す、されば市民保健の法一日も忽にすべからざるなり、凡そ一國國民の將來を卜する標準を其の國民の人口増加率に求むるは、經世家の均しく是認する所なるが、歐洲諸國に於ては文化の程度進むに従ひ、生産率は漸次減少を來し、生産の寡少は文明に伴ふ必然の結

果と見做され、文明諸國は之が匡正に維れ日も足らざるなり、我が國は未だ生産率減少の事實なきも、死亡率は逐次増加の傾向を示せり、由來我國にては人生五十年と云ひ、五十歳を以て定命としたるも、最近の統計に於ては此の事實を覆へし、日本國民の平均壽命は僅に二十九歳餘と稱せらる、然るに歐洲に於ては定命四十歳にして我國人に比し十歳餘の長命を享受す、且つ我國には一國元氣の中樞と云はるる青年の體格が年を逐うて劣惡に赴く事實あるは看過すべからざる現象なり、是れ即ち文明の弊にして

文明の弊は都市に於て主として醞釀する所なり、然らば則ち市民體育の振作せざるべからざる今日より急なるはなし、市民たるもの大なる自覺を以て自己を訓練する事を怠るべからざるなり。我が國民男女の夭折する主なる原因は結核性の疾病にして、之に次ぐものは腸チフス・赤痢等の消化器傳染病と急性肺炎等の呼吸器傳染病となり、殊に夏期の下痢腸炎と、冬期の肺炎及び氣管支炎とは、共に最も重大なる原因を爲す。吾が國の夏は人の生活に對しては溫度高きに過ぎ

同時に濕度も亦高し、人若し斯かる氣候に處して飲食物の節制を忘れ、衣服及び住宅の防暑方法に注意せざるときは容易に下痢症に罹る、また冬期日本住宅の氣温は外氣の夫れと大差無きもの多し、加之煖房方法の困難と構造方法の不經濟とは相合して感冒及び肺炎の流行の原因をなす。今若し各人能く此等の點に注意し、相警めて公衆衛生思想の普及に貢獻し、生活方法の改善及び病原の撲滅に努力を惜しまざる時は是等の災害より免れ得て人々皆其の天壽を全うし得るものなる事は、明

かに先進文明諸國の實證する所なり。都市は政治・經濟・教育・文化の中心地たるのみならず亦疾病の本源地なり、其の狀況恰も物品の原料が先づ都市に集中せられて製品と成り、次で四方に賣捌かるるが如し、病原菌屬は先づ都市民間に培養せられ、或は其毒力を高め、或は一定の巢窟を形成して後、漸く四圍に擴散するを常とす。彼の赤痢病又たは腸チフス病等が都市に於ては嚴冬の季節にも尙其の流行を止めざるは此を證するものなり、彼の戰慄すべき結核病は、今日は既に農村

僻落にも散在すれども、其の最も怖るべき巢窟は都市並に人間の群集生活を成せる工場地帯にあるなり、是れ單に是等の場處が病原の巢窟たるに適應するのみならず、其の生活方法の缺陷が之を誘發するなり。顧ふに輓近、吾が國に於ける科學の進歩は先づ産業方面に一大發展を遂げたり、而して之れと同時に交通機關の發達は人口の都市集中の勢を促したり、併しながら是等の便利なる機械の發達や、喜ぶべき商工業の發展と並行して、都市をして人間の生活に對して一層適當なる有機的組織を實現せしめざ

るに於ては、或は今後吾が國の都市は所謂青年の墓場と化せざるを知らざるなり。

三三 職業の選擇

職業に尊卑の區別はない、昔は士・農・工・商と言ひならはして士・農は上位に、工・商は下位に置かれたが、今は工・商の徒が其の頭角を擡げ來つて却つて士・農の徒を凌駕する觀がある。人にして己れの業務に優秀で品行が正しければ、物質的の業務に従ふも、精神的の業務を執るも、品位に於ては全く同一である。現

時、尙ほ職人及び勞働者を輕視する風のあるは時弊の一であるから之を矯正せねばならぬ。既に職業の上に尊卑の區別が無い以上は、人は其の趣味と、性格とに従うて之に適應したる職業を、選む事が最も肝要である。唯、此に注意を要する事は、己の長所に對する誤解と、處世の知識の寡少なる事とである。空漠たる妄信や、自己過信の爲に職業の選擇を誤まつてはならぬ。

職業の選擇は實に一生の運命を決する問題である、世の中には聰明の資質を有するにも拘はらず、一時

の虚榮心に驅られて、己れの長所を棄てて、殊更に短所に走るものがある。理學者として優に第一流に位する資質を有するものが政治家となつたるが爲に、第三流の陣笠に過ぎぬものがある。ルーズベルトや、ウキルソンは米國に於て手腕のある大統領であつたけれども、米國人は一の「エヂソン」を有するを以て彼等を有するよりも更に大なる誇として居る、宇宙に於ける引力の理法を發見した「ニュートン」は、最初から理學者たるべき素質を有して居たが、彼の母は農夫たらしめようとした、若し「ニュートン」が農夫

となつて居たならば、恐らく無名の田舎漢として終つたかも知れない。

幸にして、彼の叔父が其の才能を認識して、母に説いて「ケムブリッジ」なる「トリニチー」大學に入らしめた爲、其の長所が遺憾なく發達して、學界に大なる貢獻を齎したのである。併しながら人事は總べて希望の通りには運ばない、それに中年以後になつて初めて自己の長所に氣付くものもある。従つて一層の熟慮を要するのである。

人は其の長所を充分に發揮して社會に貢獻し社會

の單調を破らねばならぬ。生存競争より來る處世上の困難は勇氣を以て破らねばならぬ。熱心と勇氣とある處には常に希望が輝き、懶惰と放逸とには常に失望が伴ふ、眞の人間の尊貴は活動にある事を知らねばならぬ。

三四 青年の修養

青年は理想に生くるものなり、青年の時期は元氣旺盛にして精神活動高潮し、事物を直觀し、理想の實現に熱中す。世故に慣れ經驗を積みたる老成人は、利

害の觀念に囚はれ、成否の打算に惑ひて、活動力を缺く、是の故に古來社會の革新に先驅し、一代の文明を率ゐたる者、多くは其の時代の青年ならざるはなし、伊太利の三傑と謠はれたる、カブール・マジニー・ガリバルデーの如きも、皆青年時代より天下の經綸に志し、カブールの如きは二十一歳の時、既に有力なる政治運動を起せり、戦前の獨逸が勃興して歐洲の最強國となりたるも亦青年の力なりき。一千八百十三年、ナポレオンに對して起されたる自由戦争に於て、主要なる活動をなしたるものは獨逸の大學生な

りき。一千八百七十年より七十一年に亘れる普佛戦争に於て、ナポレオン三世を破り城下の盟をなさしめ、獨逸帝國を建設したる際に於て、其の帝國統一の輿論を高むるに於て大學生の力、與つて多きに居れり、國家危急の場合には學生と雖も、其の急に赴かざるべからず。我邦に於ても源賴朝以來七百年の武家政治轉覆して、徳川慶喜大政を奉還したる時、維新の改革を斷行して、明治の大業を成就したる勤王の志士は皆三十歳前後の青年なりき。國に青年の元氣なくんば、其の國衰へ、社會に青年の奮起なくん

ば社會の人文は停滯すべし。國家社會の將來は懸つて青年の肩上にあり、青年の有する使命も亦大なる哉。然らば則ち青年修養の道如何、高尚なる理想と純潔なる感情と、鞏固なる意志とを併はせ有し、青年自ら自己の人格を完成する事にあり、自己の人格を完成するは個人に具はる各方面の精神力を充分に發達せしむる事によつて成就す、即ち其の理想を高尚にし、其の情感を純潔にし、其の意志を鞏固にし、社會の有らゆる刺戟を取りて自己を練成し、世界を通ずる新精神を捉へて自己を培養し、磊々落落とし

て正理正道に向つて進むは青年處世の道義なり。
支那の古聖は身を修め、家を齊へ、國を治め、天下を平
にすと言へり。國家の盛衰、人事の消長を考ふるに、
古往今來異なる事なし、修養の要、豈他あらんや。

三五 大阪市青年聯合團歌

一、高津の宮の大御代に、み恵うけし民の裔、津の國人
こ生れたる、若き男子に誠あり。
二、つはものの夢、跡絶えて、今なりはひの百千船、いで
入る港、大阪の、若き男子に誇あり。

三、市のしるしはみをつくし、汐さる高く立つ時も、ま
どはぬ道に舟を行る、若き男子に望あり。

三六 富と人格

富は人生に對して偉大なる價值を有するものである。
倉廩實ちて禮節を知り、衣食足つて榮辱を知る
とは動かすべからざる眞理を道破したる格言であ
る。個人の名譽も國家の體面も、或程度までは富に
依つて之を支へる事が出来るのであるから、富は決
して之を輕んずべきでない。それにも拘はらず古

今東西の聖賢は口を揃へて富を輕んずる言語を殘したのは何の故か、他なし、是れ富が人間に對し大なる吸引力を有し、人間の慾望を道德の埒外に誘ふが爲である。孔子は、不義にして富み且貴きは浮べる雲の如しと言ひ、釋迦は、妻子珍寶及び王位、終に臨んで從はずと説き、基督は、富者が天堂の生活を爲し難きは駱駝が針の穴を潜るよりも難しと言うて居る、更に希臘の學者は、富の獲得は掠奪に等しと迄も説き、プラトンは商業を卑んだ。是等は何れも人が富の有する吸引力の爲に累はされぬ事を冀ふたる懇

切なる教訓である。是の故に富は人生の目的ではない、人生の手段である、黄金は萬能力ではない、人生には黄金以上の價值あるものがある。富は人生の手段なるが故、人は富を御せねばならぬ、富に御せられてはならぬ。富を御して之を善用し、其の價值を發揮せしむるは一に人格の力である。之に反して、若し富を人生の目的とするときは、遂には人格を損して社會の害を爲すに至るのである。金錢は善き從者であるが惡き主人である」と云ふ佛蘭西の諺もある。

又、富者の有する富も、社會の承認と保護とに依つて初めて其の成立と存在とを保つことが出来るのである。彼等が富を造り出す行爲は社會の承認を経、その得たる富は社會の保護を受けねば己の所有たる事は出来ないのである。殷の鑒、遠からず露國の例を見ても分るのである。されば、富者が物質的方法を以て社會に寄與する事は避くる事の出来ぬ社會奉仕である。貧者と雖も社會奉仕は固より其の責務であるけれども、彼等の社會奉仕は物質的方法を以てする事を要しない、富者の社會奉仕のみ物質

的方法を以てする事を要する、富者が斯る行動をなす事は直接には社會の發達に貢獻し、間接には自己の安全を保つ所以であるばかりでなく、必然の道德的義務である。人に尊ぶ所のものは人格である。道德を以て人格を養ひ、之を高くし、之を純にし、然る後富を積む手段を取る時は、其の富をして能く富の本義を發揮せしむる事が出来るのである、人格を玉成し、富を醇化し、然る後始めて人生の意義は全たいのである。

三七 愛市の念

都市は一國文化の中心なり、故に都市に於ける自治的生活の良否は國家の進運に至大の關係を有す。自治の善績は之を法令制度の末に求めて得べきにあらず、一に市民の道義心に待たざるべからず。市民協同生活の圓滿なる運用は市民の愛市心を基礎とす、愛市心とは公益の爲に私益を捨てて社會の爲に奉仕するを謂ふ。獨逸人は極端に自己の權利を主張する國民なれども、公共の爲には能く私心を棄つ、即ち一刻千金を争ふ繁劇なる業務に従事せる名

士と雖も、個人の便益を犠牲として自治體の名譽職となるを以て名譽とす。英國の如きは市の事務は皆委員組織なれども、各人皆責任を重んじ、自己の便宜の爲に事務を忽かせてせず、英國の殖民大臣、チエンバレンは自ら市長となりて自治體の事務に執掌し、ドクトル、クリューゲルは三十年間、奥都維納の市長となりて美績を挙げたり。夫れ人類の圓滿なる進歩を欲せば、各人の個性を發揮するの必要を見る、而して個性の發揮は偏に獨立自主の精神の存養に依つて達し得べし、然かも獨立自主の人にして協同

一致するは團體生活の通義なり。依頼心は固より甚だ卑しむべし、然りと雖も、分立離隔の風亦最も陋なり、共同生活の善美なる成績は戮力成業の美風に待つ。

都市は市民の生活を托する所なり、其の整備と發達とは市民の幸福なり、市民たるもの須らく愛市の念を以て自己に抑遜して公衆に協同し、公共の爲に盡瘁して善良なる市民たるの體面を保持せざるべからざるなり。

三八 大阪市歌

一、高津の宮の昔より、代々の榮を重ね來て、民のかまどに立つ烟、賑ひまさる大阪市

二、難波の春の朝朗あさば、生氣衢あせに漲りて、物皆動く産業の、力ぞ強き大阪市。

三、東洋一の商業地、咲くや木の花魁けいけて、四方にかをりをおくるべき、務ぞ重き大阪市。

大阪市民讀本 終

160
115

發行所

大阪市西區阿波堀通リ四丁目
振替大阪四十三番
電話新町四三・三四三〇・三四三一

株式會社
大阪寶文館



發行者兼
印刷者

柏 佐一郎

大阪市西區阿波堀通四丁目二十番地

編纂者
右代表者
大阪市教育會
松本朝吉

大正十二年三月卅一日印刷
大正十二年四月五日發行

大阪市民讀本

定價金八拾錢

